利島村
ずっとしま
計画
2030

利島村移住定住計画

東京都利島村
令和7（2025）年3月

はじめに

ふらっと もっと ほっと

ずっとしま

はじめに

2023年10月。
利島村は村制100周年を迎えました。
次の100年も“としまとずっと”

2024年、利島村は次の100年を目指し歩きはじめました。

そんな今だからこそ考えたいことがあります。

いま利島に暮らす村民の方々にとって、

どんな場所であればよいでしょうか？

過去に利島に暮らしていた方々にとって、

これから利島に暮らす方々にとって、

利島を応援したい方々にとって、

どんな存在であればよいでしょうか？

利島の魅力や価値は、普段暮らしている中に溢れています。

ずっと利島で暮らしていくために、ずっと顔の見える関係であるために、あなたが感じている課題を、こうなりたい未来を、まずはみんなで語り合いましょう。

目 次

目指す人口・・・・・・・・・・・・０５

利島のいま・・・・・・・・・・・・０７

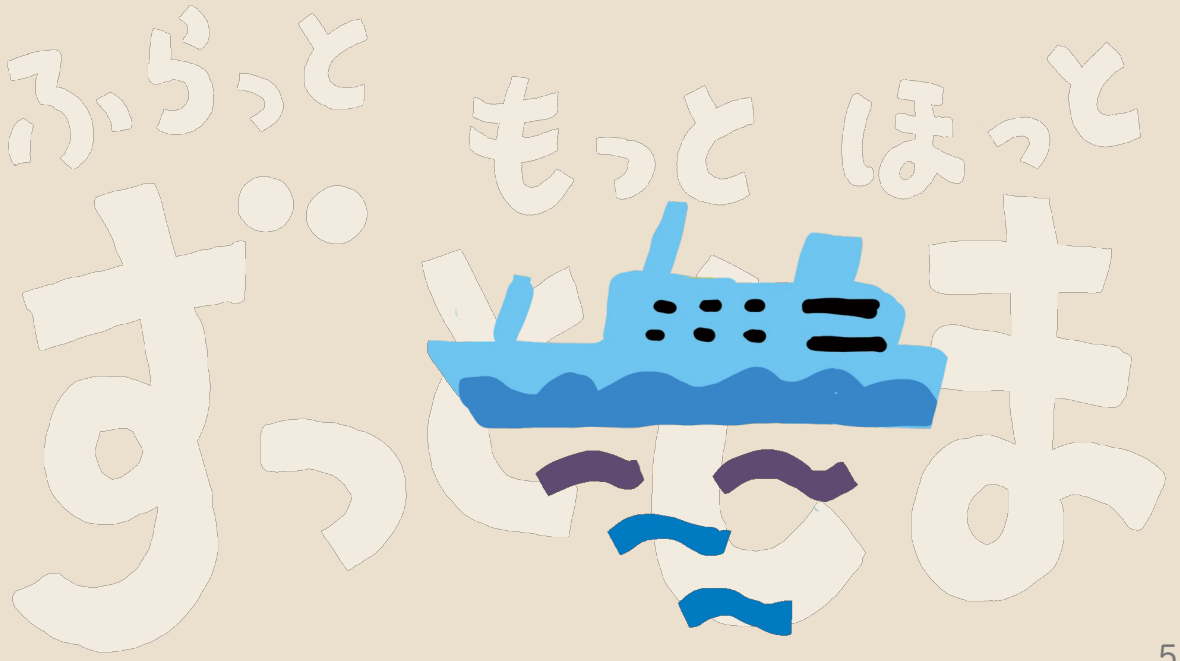
利島の課題・・・・・・・・・・・・１２

将来ビジョン・・・・・・・・・・・１７

施策の方向性・・・・・・・・・・・２０

おわりに・・・・・・・・・・・・・２６

目指す人口



目指す人口

利島村が利島村であるために。
村の生活サービスを維持するため適切な人口規模を目指します。

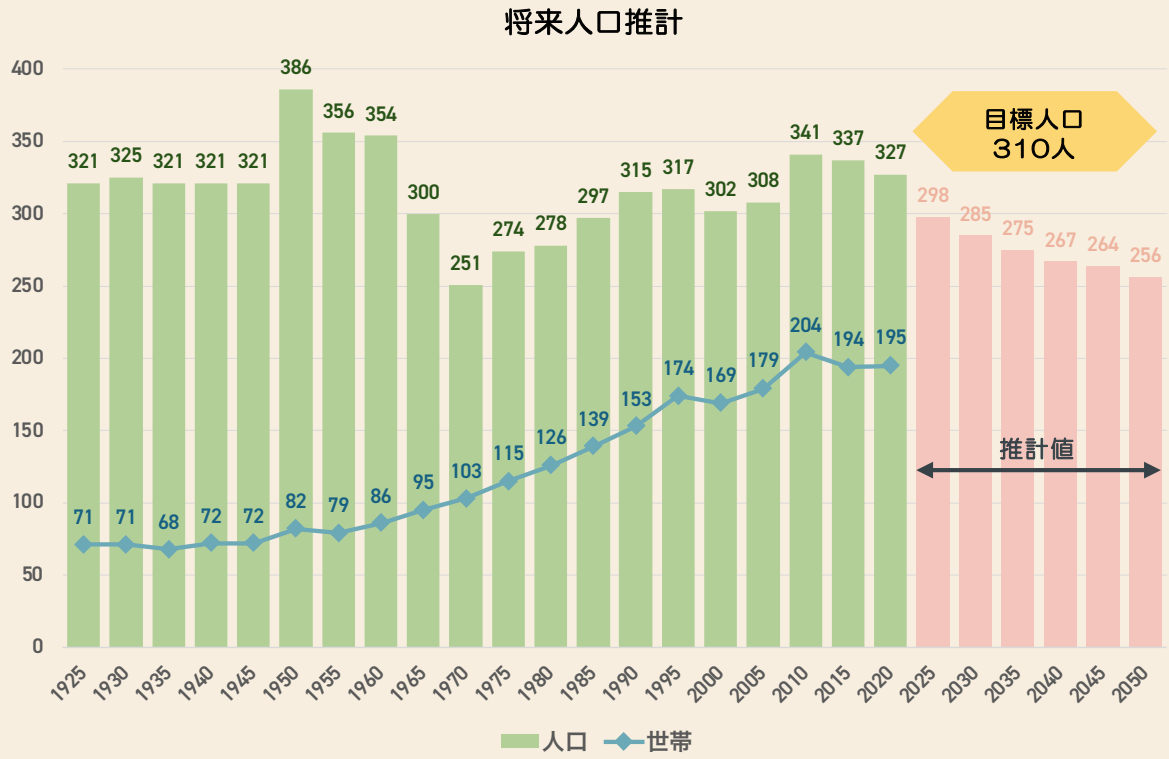
利島村は、1970年～85年にかけて一時期総人口が300人を下回るときがありましたが、戦前から長く300人台を維持しています。

しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、2025年以降人口が減少し続け、2050年には256人になるとされています。

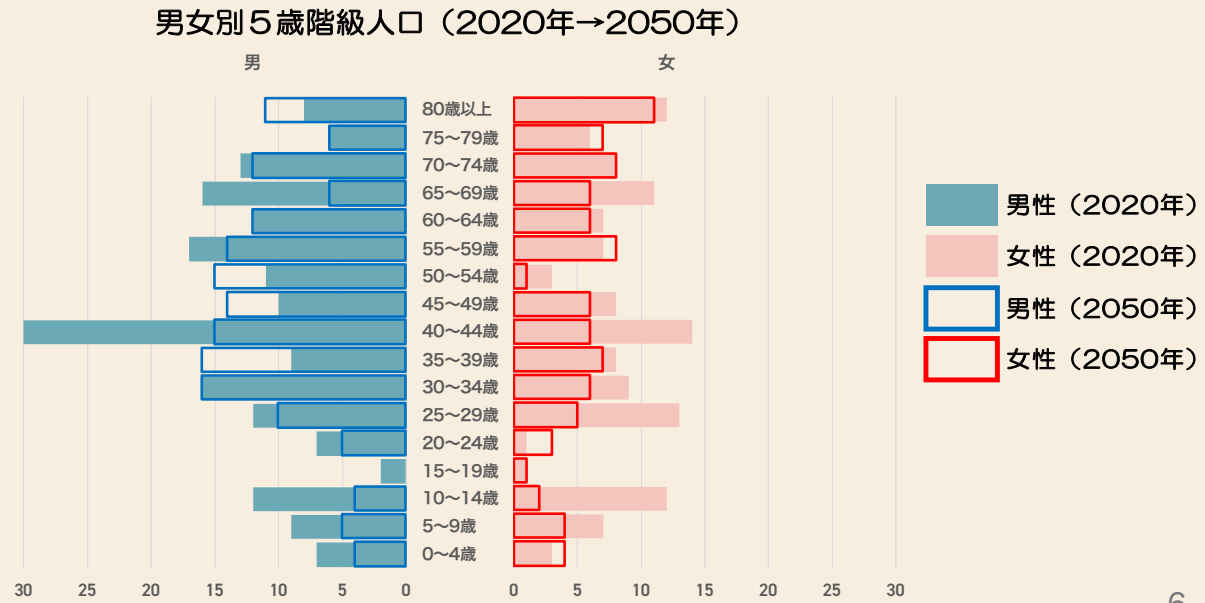
利島村で大きく人口の増加を目指せない要因として、水資源が乏しいことや住宅建設のむずかしさなどがありますが、将来推計のとおりに利島に暮らす人が減った場合どうなるのでしょうか？

産業や地域活動の担い手不足、学校、診療所、交通機関（ヘリ・船）、商店、運送など生活サービスが維持できなくなることが懸念されます。

将来にわたって安定した生活サービスを維持するため、バランスのとれた年齢構成へと移行するとともに、第４次総合計画後期基本計画で定めた目標人口310人程度の実現を目指します。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年）」



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年）」

利島のいま

ふらっと もっと ほっと
ずっとしま

利島のいま＜ひと＞

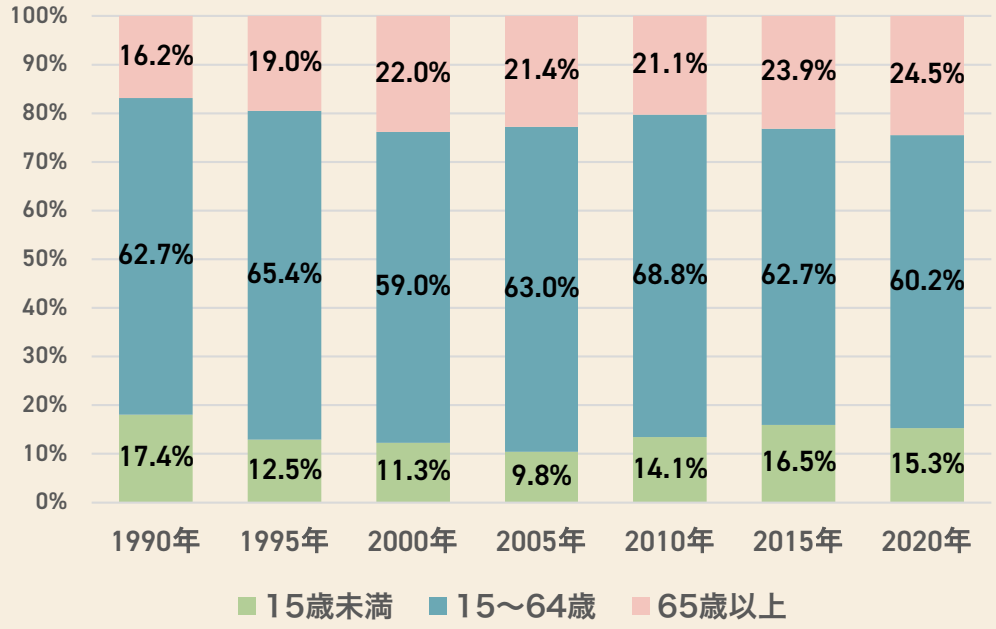
生産年齢人口におけるボリューム層は徐々に高齢化。

利島村の人口は、300人前後を維持できており、年齢３区分の人口割合をみると、年少人口（15歳未満）が10%前後、生産年齢人口（15～64歳）が60%前後、老年人口（65歳以上）が20%前後という構成になっています。

５歳階級人口をみると、30代から40代のボリューム層が年々上昇しています。

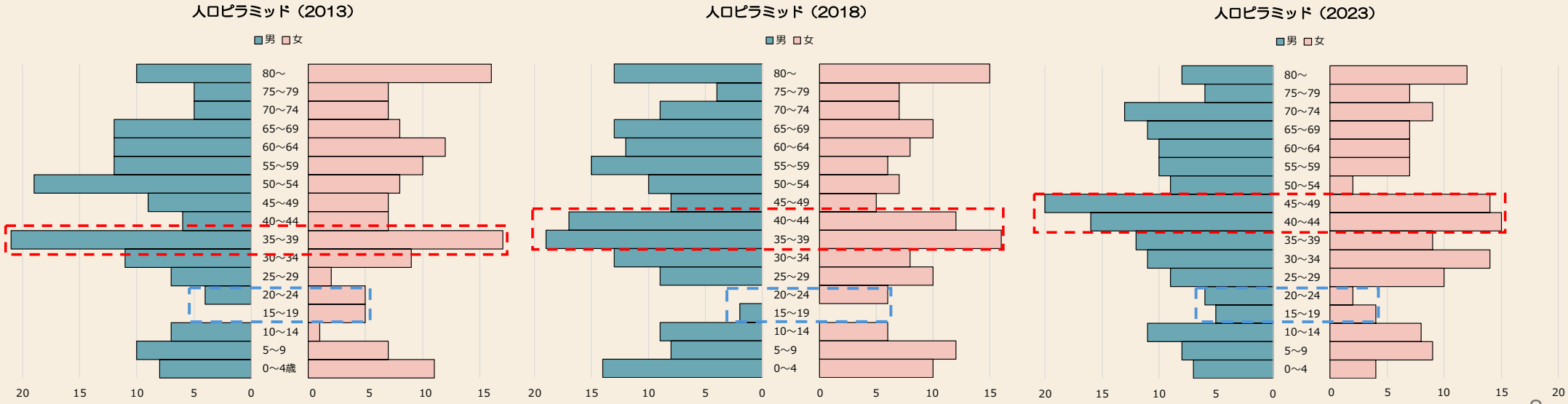
15歳～24歳は高校や大学進学、仕事で村外に流出しているため、いずれの年も少なくなっています。

年齢3区分別人口割合の推移



出典：国勢調査（各年）

５歳階級人口の推移



出典：村民基本台帳、国勢調査（各年）

利島のいま＜しごと＞

利島村の半数以上の人が第３次産業に従事。

利島村の産業別従事者数の推移をみると、「建設業」が最も多くなっています。しかしながら、建設業は2010年と比較し、約4割近く減少しています。

建設業に次いで「農業、林業」が多くなっており、就業者数は同程度を維持しています。

また、近年「医療、福祉」および「複合サービス業」が増加しています。

第１次産業および第２次産業で減少傾向にあり、第３次産業が増加しています。

産業別就業者数の推移

		2010年10月	2015年10月	2020年10月
産業	合計	246	239	235
第1次産業	小計	43	42	38
	農業，林業	36	38	32
	うち農業	36	38	31
	漁業	7	4	6
	鉱業，採石業，砂利採取業	-	-	-
第2次産業	小計	64	43	39
	建設業	61	40	37
	製造業	3	3	2
第3次産業	小計	137	154	158
	電気・ガス・熱供給・水道業	8	3	4
	情報通信業	-	-	1
	運輸業，郵便業	11	15	13
	卸売業，小売業	16	6	11
	金融業，保険業	-	-	-
	不動産業，物品賃貸業	-	1	-
	学術研究，専門・技術サービス業	-	-	-
	宿泊業，飲食サービス業	16	16	17
	生活関連サービス業，娯楽業	1	2	2
	教育，学習支援業	25	27	25
	医療，福祉	15	19	24
	複合サービス事業	6	22	19
	サービス業（他に分類されないもの）	17	19	14
	公務（他に分類されるものを除く）	22	24	28
その他	分類不能の産業	2	-	-

利島のいま＜住まい＞

様々な要因により、住宅の確保が困難。

利島村における種類別建物をみると、「戸建て住宅」が最も多く６割を超えています。また、住宅系用途の建物で７割弱を占めています。

村営住宅は、常に満室に近い状況です。

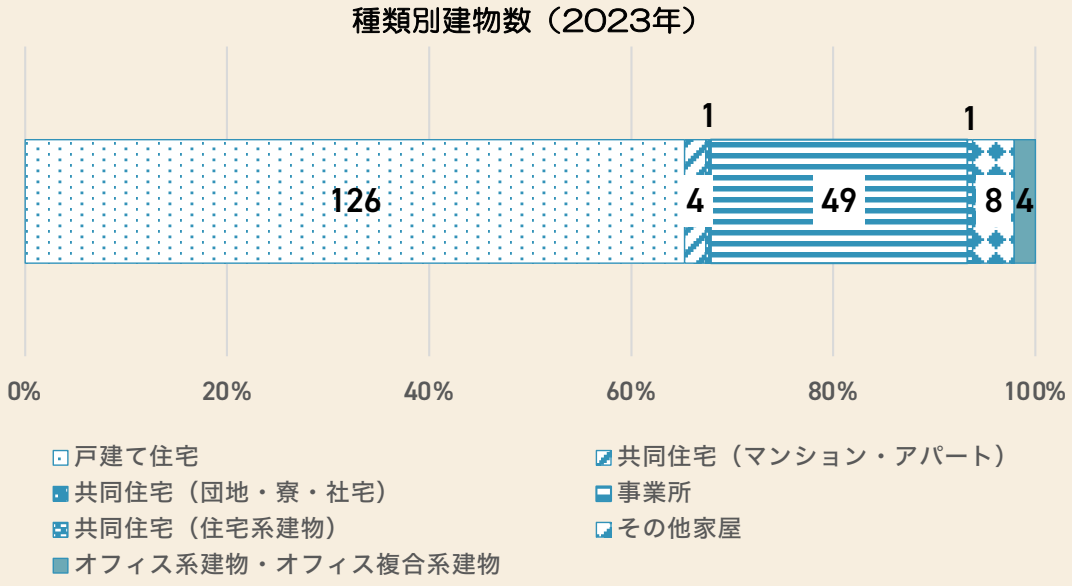
新たに家を建てる場合、「島内に工務店がない」「資材の海上輸送が必要」「道路が狭く接道条件が悪いため、資材の搬入が困難」といった理由で費用が高額になる傾向があります。

利島村は、村域の約90%が開発規制のある自然公園法上の特別地域に指定されており、また、集落内においても地形の高低差が大きく、平坦な敷地が少ないことから、建築物を建築できる敷地が限られています。

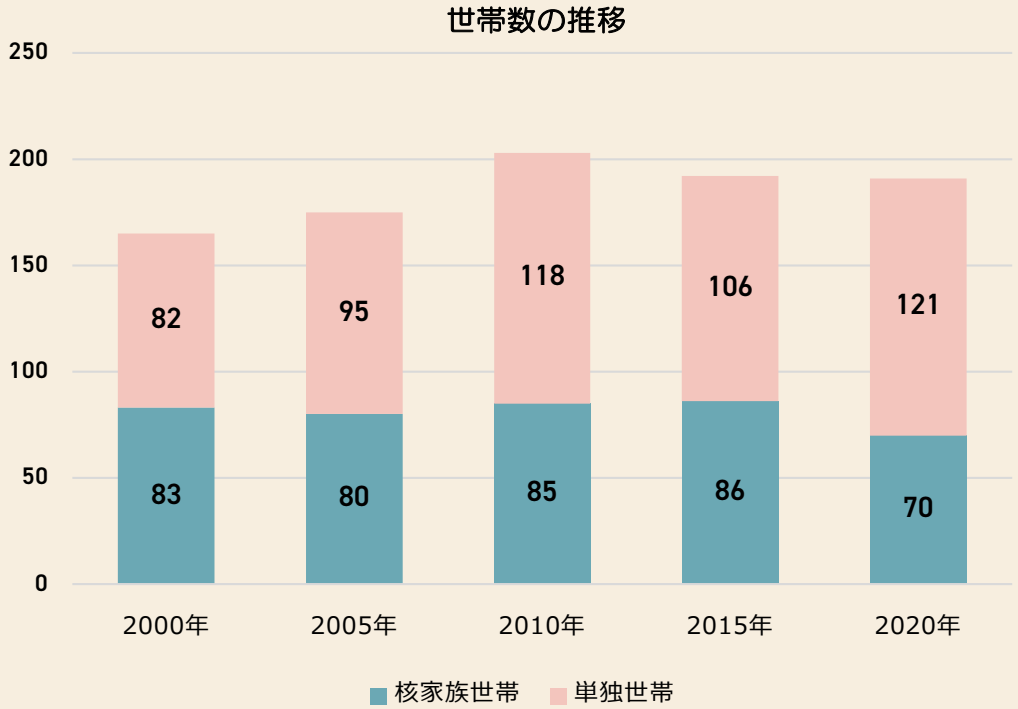
世帯数の推移をみると、「単独世帯」が年々増えており、 20年間で約1.5倍となっています。

１世帯あたりの人数が減少しているため、同じ世帯数でも人口が減少しています。

住宅の不足と単独世帯の増加により、「移住したくても住める家がない」という状況になっています。



出典：RESAS、株式会社ゼンリン「建物統計データ」



出典：国勢調査（各年）

利島のいま＜その他＞

交通、子育て・教育、生活面で離島特有の特徴や課題。

交通

- タクシーやバスなど交通機関がなく、レンタカー、レンタルバイク等もないため、来島者は徒歩での移動、又は民宿に相談している状況です。
- 利島は１集落となっており、生活圏を徒歩15分内で移動ができるコンパクトな環境ですが、高低差があるため、マイカーが便利です。

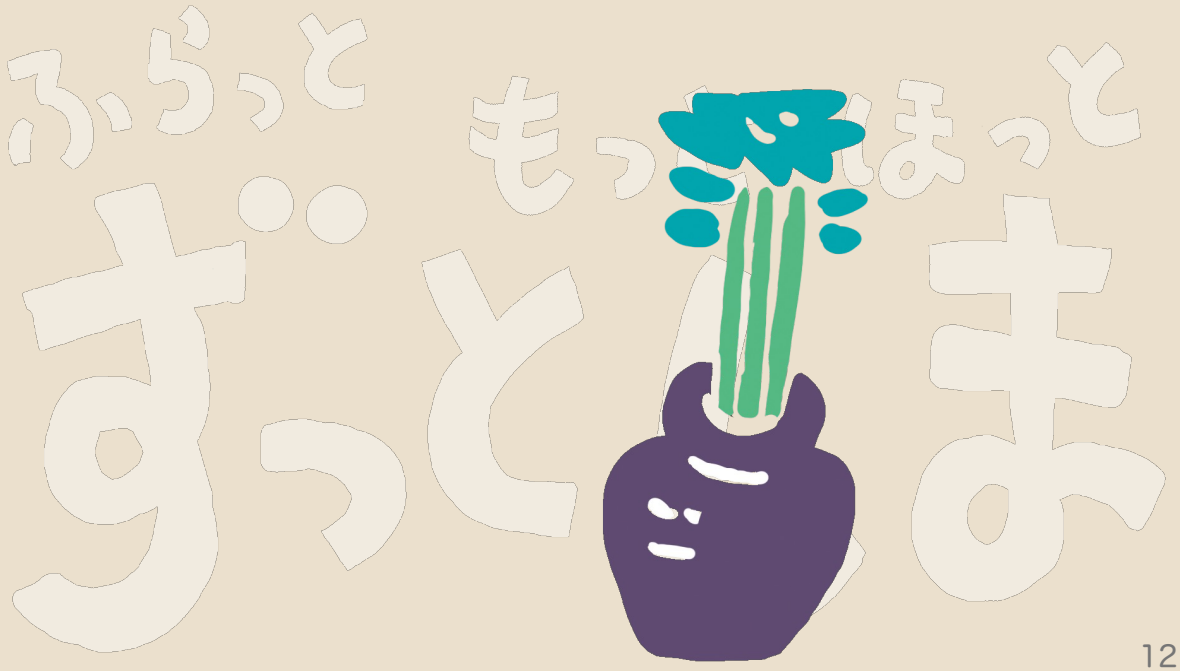
子育て・教育

- 利島村では分娩施設がないため、村民が利島村以外で出産する場合の費用の一部を助成しています（出生児1人につき500,000円）。
- 子どもたちは中学校を卒業すると島外の高校などに進学する「15の春」を迎えます。
- 令和6年4月から利島小中学校を「義務教育学校」に移行しています。利島だからこそできる教育活動が推進しやすくなる、小中連携がさらに進む等の効果が期待されています。

生活

- 島内で食品や日用雑貨品が購入できるのは、集落内にある商店３店舗となっています。
- 医療機関については、診療所が1施設あり、一般的な病気や怪我の治療には対応できますが、時間外診療や休日診療は、村役場を通じて対応しています。重症患者発生時は、内地への緊急搬送等の対応が行われることもあります。

利島の課題



移住定住促進に向けた利島村の課題

＜課題１＞

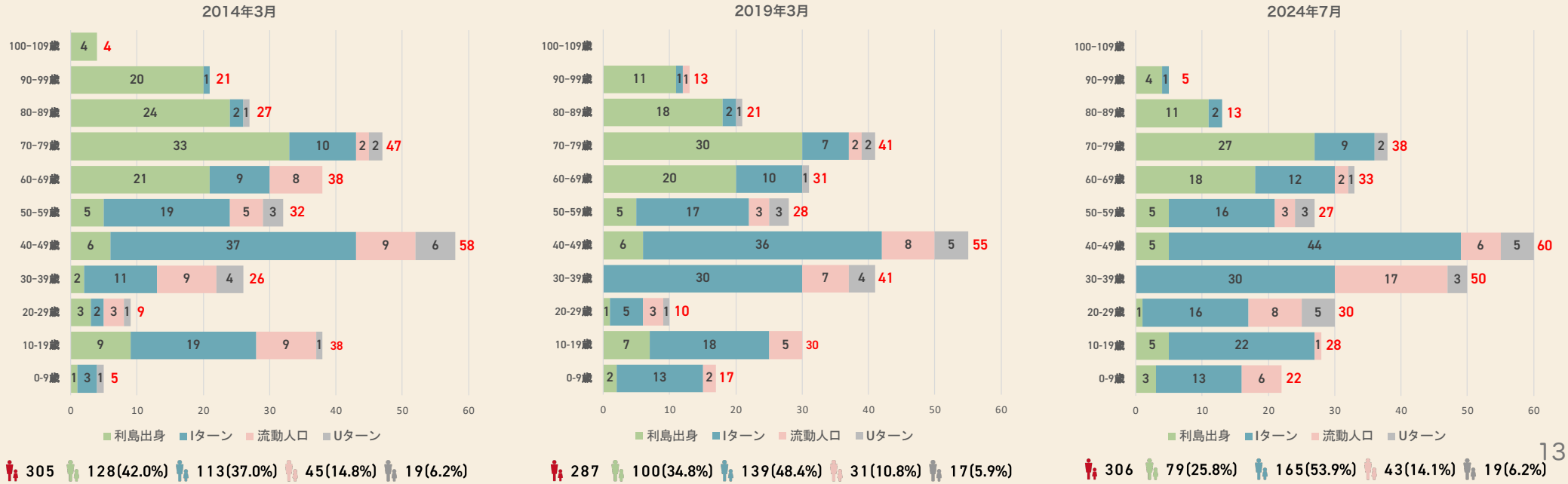
利島村から転出した人々が、島外から村と関わり続けられる仕組みや機会づくりが必要

利島村の人口構成の特徴として、島内には高校がないため、ほとんどの子どもたちが義務教育修了と同時に進学や就職のために島を離れる「15の春」を迎えます。この結果、人口ピラミッドの推移を見ると、15～24歳の年齢層が極端に少ない状況です。

加えて、教育、医療分野などにおける任期付職員の存在があります。任期付職員とその家族は、利島村に一定期間居住し、任期を終えた後は島から転出する流動人口を形成しています。

このように、利島村を離れざるを得ない人々もいるため、移住定住人口だけではなく、島を離れた人々が継続的に村と関わり続けられる仕組みや機会を創出することで、利島村から離れた後も「帰ってきたい」「関わり続けたい」と思ってもらえる関係人口を増やしていくことも大切です。

出身別人口構成

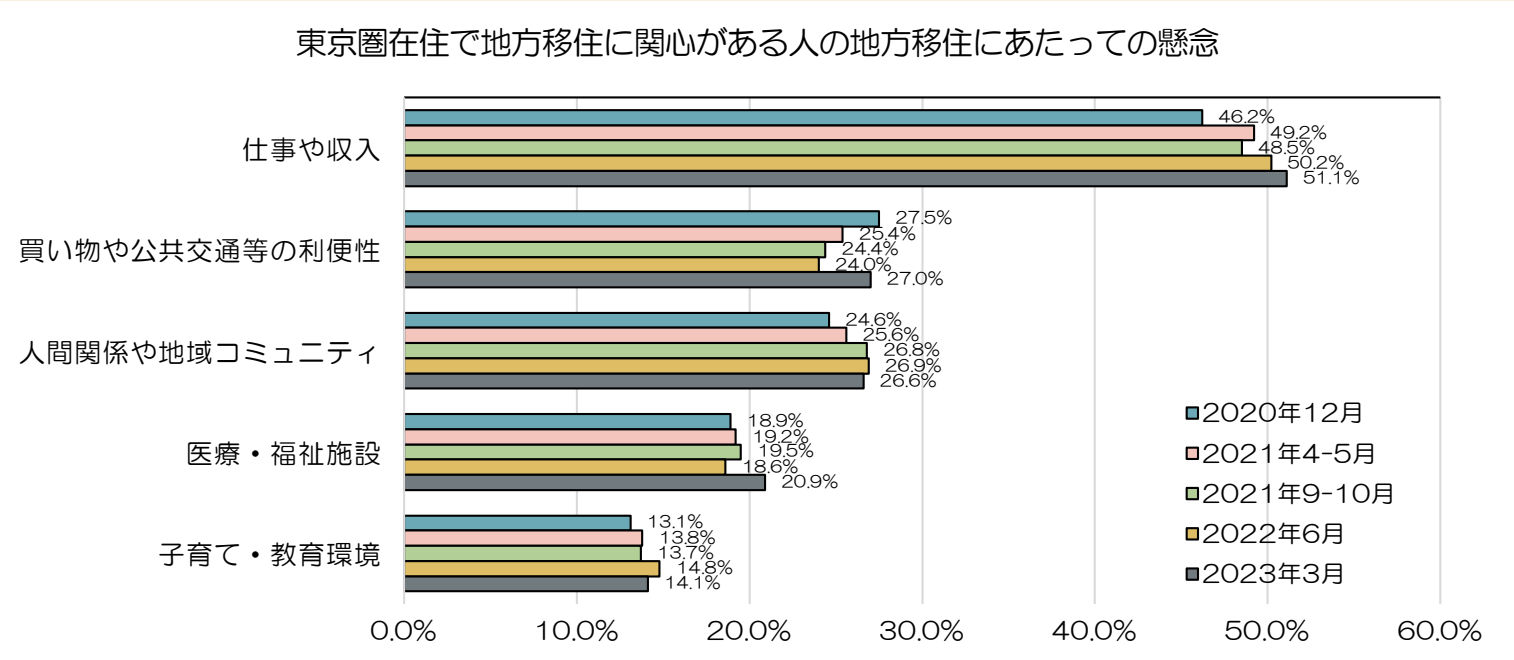


移住定住促進に向けた利島村の課題

＜課題２＞
島暮らしに適した働きやすい環境づくりや就業ニーズの多様化への対応が求められる

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少等により、全国的に労働力不足が深刻化しており、自治体や企業では人材確保に向けた取組が激化しています。利島村においても、基幹産業である椿産業をはじめ、各産業で担い手の高齢化や後継者不足といった課題に直面しています。また、村内にある民間企業が数社にとどまることは、職種の選択肢が多い他地域に若者が流出することや、移住潜在層のニーズに応えられず受け入れ機会を逃していることの要因として懸念されています。

地方移住に関心がある人にとって「仕事や収入」は大きな懸念事項であるため、今後、移住者を呼び込むには、働く人々の多様なニーズに応える環境を整え、利島村に暮らしながら働くことの魅力を伝えていくことが必要です。



出典：内閣府「第6回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」2023年（令和5年）

移住定住促進に向けた利島村の課題

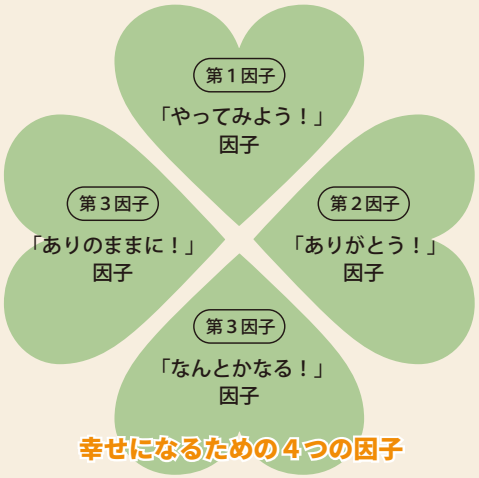
＜課題３＞
適度な地域のつながりの構築とストレスケアとのバランスを考慮することが必要

利島村は人口が少ないからこそ、お互いの顔が見える小規模なコミュニティが築かれ、先祖から受け継がれてきた「ボイ」や「トリゴ」など、助け合いの知恵を活かした共助の関係により、地域社会が支えられてきました。人々の幸福に影響する要因として「つながりと感謝（ありがとう因子）」が挙げられるように、この村民同士の関わり合いは生活の幸福度を高める重要な要素と言えます。

しかし、近年では、人口の転出入や核家族化、さらにはコロナ禍での行動制限等によるライフスタイルの変化が進行しており、これまでの共助の関係が少しずつ希薄になりつつあります。このため、適度な地域のつながりを構築し、村民や移住者が心地よい暮らしを実現できるような体制を整えることが重要です。

一方で、「ストレス社会」と呼ばれる現代においては、ストレスの要因が多様化・複雑化しており、悩みを抱えながらも周囲に相談しづらい状況に直面することも少なくありません。特に小規模なコミュニティにおいては相談相手が限定されやすいという特有の課題も見られます。今後は、プライバシーへの配慮を意識しながら、適度な地域のつながりの構築とストレスケアとのバランスを考慮した取組が求められます。

幸せになるための４つの因子（慶應義塾大学大学院SDM研究科　教授　前野隆司氏）



「やってみよう！」因子
- ビジョンを描く力：目先のことにとらわれず未来に目を向ける
- 強み力：小さな強みに気付く
- 没入力：夢中になれる何かを見つける
- 満喫力：喜びや楽しさは思い切り味わう
- 成長意欲：変化を恐れず一歩前へ進む
- 想像力：ちょっとした工夫やチャレンジをする
- 自己肯定力：「どうせ自分なんて」などの表現をやめる

「ありがとう！」因子
- 感謝力：毎日３つの小さな感謝を見つける
- 利他力：自分を大切にしつつ相手のことを考える
- 許容力：許せないことや不満は、まずはその半分を許容してみる
- 信頼関係構築力：相手と分かり合える部分を少しずつ見つける
- コミュニケーション能力：傾聴など対話の心得を習得し、スキルを高める

「なんとかなる！」因子
- 挑戦力：「とりあえずやってみる」の精神で飛び込む
- 楽観力：しっかりと準備し、なんとかなる自分を信じる

「ありのままに！」因子
- マイペース力：和を保ちながらものみ込まれず、自分らしさを失わない

移住定住促進に向けた利島村の課題

＜課題４＞
移住受け入れに向けたハード・ソフトの見直しと拡充

利島村には、令和6年7月1日現在、村営住宅が37戸ありますが、そのうち空きは2戸となっており、住宅の供給状況は逼迫しています。移住促進にあたり、住宅の確保が不可欠である一方で、離島特有の高額な建設費や土地利用の制約等により、新築住宅の建設には多くの課題が伴います。さらに、村内の民宿も、工事や調査等で訪れる事業者の長期滞在利用により満室となるケースが多く、移住希望者や観光客の受け入れ機会の損失につながることも少なくありません。移住促進を図る上で、こうしたハード面の課題を解消する取組が重要です。

また、移住促進のためには、効果的なプロモーションや移住支援が不可欠です。現状では、利島村独自の移住促進サイトやイベントはなく、東京都が進める「東京多摩島しょ移住施策」に連携し、そのイベントへの参加が中心となっています。今後は、村と村民が一丸となって村の魅力を伝えられる村独自のプロモーションの強化や、移住希望者の悩みや不安に丁寧に対応できる支援体制の構築が求められます。

上記のように、本村の移住定住促進に向けては、ハード面・ソフト面の両面において、受入体制の見直しと充実を図ることが求められます。

東京たましま移住定住ポータルサイト

利島村暮らし体験ツアー

東京多摩島しょ移住定住フェア2023

将来ビジョン

将来ビジョン

「利島村民憲章」に掲げる将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を移住定住の側面から具現化するために、将来ビジョンを設定します。

利島村の移住定住促進におけるあるべき姿｜将来ビジョン

ふらっと もっと ほっと ずっとしま

利島は、多くの島外の方たちの力を必要としています。そんな、利島に関心をもったり、応援してくれる人が“ふらっと”訪れ、戻ってこれる島でありたい。

利島に訪れた人が、“もっと”関わり続けて村民との信頼関係を持ち続けられる島でありたい。

利島に暮らす人が、利島で暮らし続けていくために、ときには“ほっと”安らげる、心の拠り所がある島でありたい。

利島村の最大の魅力は“ひと”です。訪れる人、関わる人、暮らす人が「としまとずっと」でありつづけるために、「ふらっと、もっと、ほっとずっとしま」を目指します。

将来ビジョンを実現するために

将来ビジョンを実現するために、下記の４つの柱を掲げて、村と村民が一丸となって推進します。

1．ふらっとしま

＜2030年に目指す姿＞
- SNSやWEBサイトで利島の情報に触れる機会が増える。
- 来島者と村民の交流が自然と生まれている。
- 移住相談が気軽に行えて、移住希望者に寄り添いながら疑問や不安が解決できる。

2．もっとしま

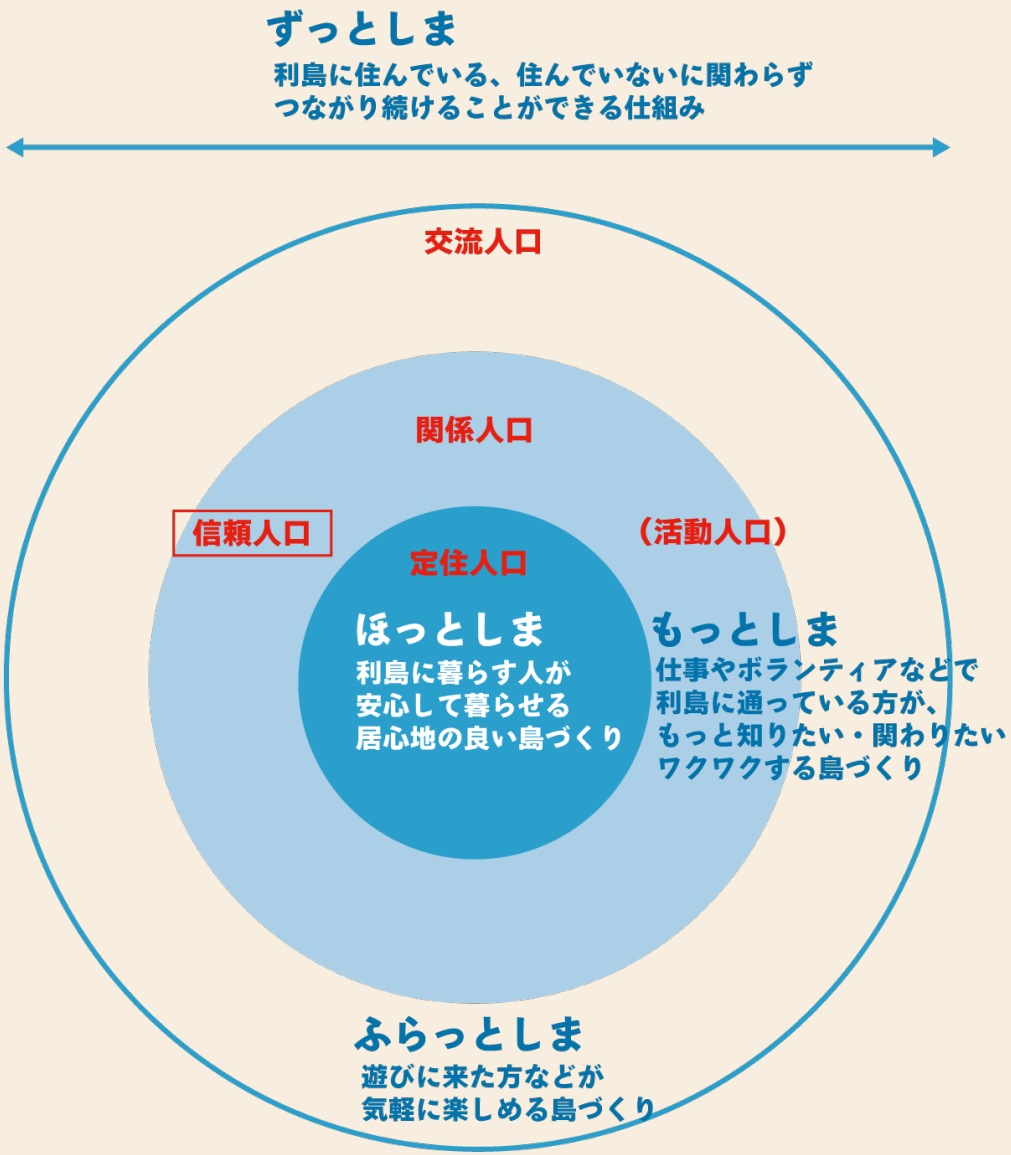
＜2030年に目指す姿＞
- 子どもたちが、もっと利島のことを知り、むらづくりに参画し、郷土愛が高まっている。
- 利島に住む大人や来島者が、利島の自然や歴史文化などについて学び・研究し、幸福度が高まっている。

3．ほっとしま

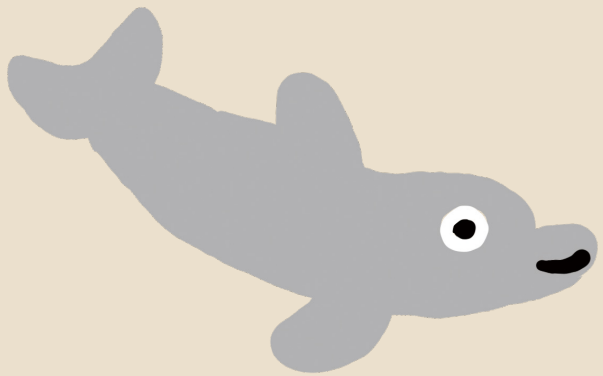
＜2030年に目指す姿＞
- 職場やクラブ活動などに限らず、気軽に村民が集まり交流が図られている。
- 利島に暮らす不安を安心して相談できる場所がある。
- 来島者が利島の共助の精神、文化に触れる機会がある。

＜横断＞ずっとしま

＜2030年に目指す姿＞
- どこにいても利島の旬の情報を入手でき、自らも発信できる。
- 利島を離れた子どもたちが、利島に関わり続け、帰ってきたいと思える。
- 利島でのイベントや地域活動に参加することで、お得に買い物ができる。



施策の方向性



ふらっと もっと ほっと

ずっとしま

SDGsと施策の関係

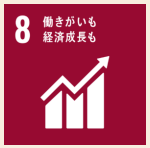
SDGsとは、貧困、紛争、気候変動、感染症などのさまざまな課題が起きている地球で、人々が暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために、2015（平成27）年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」です。
利島村においても、「第4次総合計画」の後期基本計画にSDGsを位置付け、17の目標と各施策の対応を示しています。移住定住計画においても、このうち主に6つの目標への対応を位置付け、施策を推進していきます。

目標３　あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

住民の健康維持は自治体の保健福祉行政の根幹です。国民皆保険制度の運営も住民の健康維持に貢献しています。都市環境を良好に保つことによって住民の健康状態 を維持・改善可能であるという研究成果も得られています。

目標４　すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

教育の中でも特に義務教育等の初等教育においては自治体が果たすべき役割は非常に大きいと言えます。地域住民の知的レベルを引き上げるためにも、学校教育と社会教育の両面における自治体行政の取組は重要です



目標８　包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

自治体は経済成長戦略の策定を通して地域経済の活性化や雇用の創出に直接的に関与することができます。また、勤務環境の改善や社会サービスの制度整備を通して労働者の待遇を改善することも可能な立場にあります。

目標９　レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

自治体は地域のインフラ整備に対して極めて大きな役割を有しています。地域経済の活性化戦略の中に地元企業の支援などを盛り込むことで、新たな産業やイノベーションを創出することにも貢献することができます。

目標10　包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

包摂的で、安全、レジリエントで持続可能なまちづくりを進めることは首長や自治体行政職員にとって究極的な目標であり、存在理由そのものです。都市化が進む世界の中で自治体行政の果たし得る役割は益々大きくなっています。

目標11　持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

自治体は公的/民間セクター、市民、NGO/NPOなどの多くの関係者を結び付け、パートナーシップの推進を担う中核的な存在になり得ます。持続可能な世界を構策していく上で多様な主体の協力関係を築くことは極めて重要です。

１．ふらっとしま

誰もが気軽に関わりを持てる島づくりを推進します。

2030年｜村民の実感

最近の利島って面白いよね

2030年｜数値目標

目標	情報発信件数
	200件（SNS 月2～3件 記事 月1件）

施策のイメージ｜

〇利島村コミュニティポータルサイトやＳＮＳを活用し、島の暮らしや仕事、魅力をよりイメージできるよう、必要な情報を今まで以上に充実させて、配信する。

〇都内で開催される「東京愛らんどフェア」、「島じまん」、「アイランダー」を中心に、さまざまなイベントに出展して、島外に転出した方や進学等をした子どもたちとの交流の場を積極的に設ける。

〇上記以外の移住関連イベントにも出展して、そこで関心を持った人に利島の暮らしの情報や魅力を伝えるとともに、必要に応じて「東京多摩島しょ移住定住相談窓口」にスムーズにつなげていく。

など

２．もっとしま

もっと知りたい・関わりたいを生むワクワクする島づくりを推進します。

2030年｜村民の実感

島外の知り合いが増えた

2030年｜数値目標

目標	交流施設利用者数
	8,500人

施策のイメージ｜

〇義務教育学校の特長を活かし、独自のカリキュラムを編成して、地域の文化・歴史などを体系的に学べるようにする。

〇村民に加えて、来島者も対象に、利島の文化や食に気軽に触れることができる機会を創出する。

〇利島の地場産業である「椿」において、学生ボランティアやワーキングホリデーを引き続き、受け入れていく。

〇村民と来島者の交流を促進するため、交流機能を備えた複合型サテライトオフィス（仮称）を整備する。

など

３．ほっとしま

安心して暮らせる居心地の良い島づくりを推進します。

2030年｜村民の実感

利島に暮らしてよかった

2030年｜数値目標

目標	人口の維持
	310人

施策のイメージ｜

○子育てをしている現役世代の移住を促進するため、テレワークをできる環境に、子どもが遊ぶことができる施設を併設した複合型サテライトオフィス（仮称）を整備する。

○また、村民が気軽に集まり、日常会話や情報交換等ができる場としても活用し、村民間の交流を深めて、子育てや暮らしなどの相談も相互にし合える関係づくりをできるようにする。

○子育てや暮らしについて、相談しやすい環境を村や社協が作り上げていく。

など

＜横断プログラム＞ずっとしま

だれもがいつでもどこでも利島とつながれる仕組みづくりを推進します。

2030年｜村民の実感

どこからでも利島に関わることができる

2030年｜数値目標

目標	コミュニティポータルサイトのPV数
	100,000PV

施策のイメージ｜

〇より生活に根ざした利島の魅力を伝え、リアルに移住をイメージできるようにするために、村民ライターを養成して、利島の日々の暮らしなどを継続的に発信する。

〇村内での地域活動・イベントへの参加によってポイントが溜まり、村内でのお買い物等に活用できる仕組みを構築して、村民や来島者の地域活動への参画を促進する。

など

おわりに

ふらっと もっと ほっと
ずっとしま

おわりに

次の100年も“としまとずっと”
「生き生きとした活力のある島　自立する村　利島」を
みなさんと創っていきましょう。

いま利島に暮らす村民の方々にとって、
安心して暮らし続けられる島であるように。

過去に利島に暮らしていた方々にとって、
帰ってきたくなる、あるいは遠くからでも心を寄せられる島であるように。

これから利島に暮らす方々にとって、
新たな生活の場として迎え入れてくれる温かい島であるように。

利島を応援したい方々にとって、
その魅力や価値をともに育み、未来につないでいける島であるように。

この計画は、利島がずっと続くように描いた
「こうなりたい未来」の第一歩です。
私たちを取り巻く利島の魅力や価値を大切にしながら、
これからも顔の見える関係を育み、共に歩んでいきましょう。